

人の振り見て我が振り直せ—シナリオを用いた SGD による実務事前実習における
態度教育の試み—

○小佐野 博史¹, 横山 和明¹, 渡邊 真知子¹, 栗原 順一¹, 西郡 秀夫¹, 井上 圭
三¹ (¹帝京大薬)

【目的】病院・薬局実務実習に学生を送り出す薬学部として、知識、技能の教育はもちろん、態度について、近年の若者の意識の変化に対応した効果的な方略の構築が急務である。帝京大学薬学部では、学生の実習に臨む態度の是正と徹底を図ることを目的とし、3日間にわたる事前実習の最初に、「他人の振り見て我が振り直せ」というサブタイトルで SGD を試みた。今回は、シナリオを用いた SGD の概略と、平成16年度4年生約400名全員に対して実施した結果を報告する。

【方法】SGD は初日午前中に設定した。実習先からのアンケート等を参考に、実務実習初日の学生の行動をシミュレーションした約2,000字からなる「シナリオ」を作成した。まず、全員の前でシナリオを音読し、学生には、実習先の指導教員として、このモデル学生を、1) 挨拶、2) 時間厳守、3) 医療従事者への対応、4) 患者さんへの対応、5) 実習生同士の関わり、6) 自ら学ぶ姿勢、の6項目を6段階で評価させた。ついで、これらの結果を基に、SGD (9人1組) でグループとしての「モデル学生」の評価を行なった。SGD には薬学部教員と実習先の薬剤師数名が巡回し、討論への参加度、討論の内容等評価した。SGD 終了後、代表者にグループの評価と基準となった態度、評価に至った討論の内容などを発表させた。また、事前実習終了後と病院・薬局実務実習終了後にアンケート調査を実施した。

【結果・考察】アンケート調査の結果、事前実習終了後の感想では90%以上が、また、実務実習終了後では80%近くの学生が「役に立った」と回答した。3日間のプログラムの中で SGD を「役に立った」と回答した学生は、事前実習直後では最も低かったが、病院・薬局で実習を行った直後では最も高かった。態度教育は、教員が教えるより学生間で SGD により討論する方法が有効であると考えられる。